

テレビ電話の国際標準化に貢献

テレビ電話の相互接続性を確立することは、品質を向上させることと並んで重要な課題であった。このため、1984年（昭和59）に CCITT（現 ITU-T）において専門家グループが設置され、各国から研究者が集まって研究を開始した。その結果、動き補償フレーム間予測に DCT（離散コサイン変換）を組み合わせたハイブリッド符号化方式という技術（CCITT（現 ITU-T）勧告. 261）が確立された。これは、MPEG などその後に続く重要な規格の基本となった。また、CIF という画像フォーマットが規定され、地域のテレビ方式の差異を気にすることなく相互接続することが可能となった。KDD はその当初から積極的にこの活動に参加し、数多くの技術的な寄与を行った。また、CCITT 日本代表、国内委員会の主査などを務め、各社の試作したコーデックを KDD 研究所に集めて国際相互通信実験を実施するなど、テレビ電話の国際標準の制定に多大な貢献をした。

出典：KDD 社史